令和６年度　自己評価計画書

石川県立七尾東雲高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1	学習環境の充実と「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくり、「わかる授業」の取り組み	①	落ち着いた雰囲気の中で日課をスタートさせるために５分間の朝学習にしっかり取り組ませる。	全学年 生徒指導課	落ち着きのある学校生活をスタートするためには時間に余裕を持って登校し、朝学習に臨むことが大切である。今年度も引き続き、基本的生活習慣の定着を図り、遅刻することなく学びに向かう姿勢を醸成していく必要がある。	【成果指標】 生徒全員が落ち着いて朝学習に取り組んでいる。	落ち着いた雰囲気の中で、朝学習に取り組んでいると答える生徒の割合が Ａ　９５％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７５％未満	ＣまたはＤの場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、生徒にアンケートを実施する。 （生徒の学校評価）
		②	わかりやすい授業づくりの一環として、特にクロムブック等のＩＣＴ機器を効果的に活用した授業づくりに努める。	教務課 各教科	ＩＣＴ機器の活用は浸透してきているが、生徒が主体的に学習し、思考力を高めるために、更にクロムブック等の効果的な活用やＧＩＧＡスクール構想を推進し、授業を改善していく必要がある。	【努力指標】 教員が、ＩＣＴ機器を積極的に活用し、授業改善に努めている。	生徒による授業評価において「ＩＣＴ機器を活用している」と回答する肯定的評価が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	ＣまたはＤの場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、生徒にアンケートを実施する。 （生徒の授業評価） アンケートでは実習科目を除く。
		③	主体的・対話的な授業づくりを目指し、発表活動を効果的に取り入れ、生徒が意欲的に授業に取り組めるようにする。	教務課 各教科	「生徒が発言や発表をおこなう場面が大変多い」とする評価が昨年度は59％であり、十分とはいえない状況である。授業等において、生徒の発表や学びあいの場面を積極的に設定するなどの改善が必要である。	【満足度指標】 生徒が、主体的に授業に参加し、対話的に学習していると感じている。	生徒による授業評価において「生徒が発言や発表、学びあいをする場面が大変多い」と回答する肯定的評価が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	ＣまたはＤの場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、生徒にアンケートを実施する。 （生徒の授業評価）
		④	わかりやすい授業づくりを目指し、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。	教務課 各教科	昨年度は授業評価において、６２％の生徒が「授業を受けてよく理解できた」と回答している。わかる授業を推進するために、生徒指導の３機能を活かした授業の工夫が必要である。	【満足度指標】 生徒が「授業を受けて、理解できた」と感じている。	生徒による授業評価において「授業を受けてよく理解できたと感じる」と回答する肯定的評価が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	ＣまたはＤの場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、生徒にアンケートを実施する。 （生徒の授業評価）
2	生徒の適性に応じた志望進路の実現	①	生徒が主体的に将来の進路をしっかり考え、進路実現に向けて取り組むよう、各事業の事前・事後学習を充実させる。	進路指導課 学級担任	進路選択に際し、自ら将来を見通して、行動できる生徒が多くはない。外部講師による講話や施設見学、及び企業ガイダンスでは生徒が能動的に学習できるように、事前・事後学習を推進する必要がある。	【満足度指標】 生徒が「進路ガイダンスが主体的に将来を考える上で役立っている。」と感じている。	学校の進路説明会、企業見学等が、主体的に将来を考える上で役立っているとする肯定的評価が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｂ以下の場合、改善策を検討する。	各学年の進路行事の際に、生徒にアンケートを実施する。 （生徒の学校評価）
		②	生徒と保護者が進路について話し合う機会を持てるよう、資料や情報を活用しながら面談等で働きかけ、生徒の進路意識の高揚を図る。	進路指導課 学級担任	保護者面談や進路説明会等において、家庭で、生徒と保護者が将来について話し合う機会を持つようお願いしているが、十分な成果が得られていない。	【成果指標】 家庭で、生徒と保護者が進路について話し合う機会を持っている。	家庭で、生徒・保護者が将来の進路について、話しているとする肯定的評価が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	Ｂ以下の場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、生徒・保護者にアンケートを実施する。 （生徒・保護者の学校評価）
		③	インターンシップ前に、実施の目的を丁寧に説明し、基本的な接遇指導を繰り返し徹底して行う。	進路指導課 学級担任	２年生の就職希望者を対象としたインターンシップを実施している。実施する際は受け入れ企業から挨拶や返事など基本的な接遇について不満がでないよう、十分な事前指導をする必要がある。	【成果指標】 インターンシップにおける生徒の接遇態度が良い。	受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関する肯定的に評価した企業数が Ａ　９５％以上 Ｂ　９０％以上 Ｃ　８５％以上 Ｄ　８５％未満	Ｂ以下の場合、改善策を検討する。	７月の実施後、受け入れ企業にアンケートを実施する。
3	特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成	①	生徒指導課と教職員、公安委員で「朝のあいさつ運動」に取り組む。	生徒指導課 特別活動課 部活動	「積極的なあいさつができている」の質問において、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と回答した生徒の割合が、１年生72％・２年生69％と評価が低い。改めて挨拶の意義を理解させ、集会など様々な場面でもあいさつを活発にしていく。	【成果指標】 生徒が相手の目を見て自分から進んで大きな声であいさつができている。	生徒の学校評価において「積極的なあいさつができている」と回答する肯定的評価が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｃ以下の場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、生徒にアンケートを実施する。 （生徒の学校評価）

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
		②	生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等を積極的に推進していく。	特別活動課 学級担任	通学路および駅周辺の清掃や募金活動など、ボランティア活動や地域への貢献活動等に取り組んでいるものの、自己有用感が高まったと感じている生徒の割合は、79%に留まっている。今年度は活動開始前に意義や目的を明確に伝えた上で実施していく。	【満足度指標】 生徒が、ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、自己有用感が高まったと感じている。	ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、ボランティア精神や自己有用感が高まったとする肯定的評価が A　８０%以上 B　７０%以上 C　６０%以上 D　６０%未満	Dの場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、生徒にアンケートを実施する。 （生徒の学校評価）
		③	基本的な生活習慣の確立のため、1日の活力のもととなる朝食の習慣化を目指した指導を行う。	保健環境課	昨年度の心と体の健康調査の結果、普段朝食を時々食べないことがある・ほとんど食べないと回答した生徒が27.8%であった。日中の活動のエネルギー源である朝食の大切さを理解し、朝食を習慣化させるための指導を行う必要がある。	【成果指標】 生徒が朝食の大切さを理解し、朝食摂取率が向上する。	保護者へのアンケート調査において、生徒が朝食を食べて登校すると答える保護者の割合が A　８０%以上 B　７０%以上 C　６０%以上 D　６０%未満	D以下の場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、保護者にアンケートを実施する。 （保護者の学校評価）
		④	朝の登校指導及び昼の校内巡視を通して、頭髪服装を整えることや、規範意識の大切さを繰り返し指導する。	生徒指導課	アンケートで「登校・校内で服装指導など声かけができている」と回答する教員は87%である。今年度は授業開始時に身だしなみを正す指導や、挨拶の励行など、全職員で一致協力して生徒への声かけをしていく。	【努力指標】 全教職員が共通理解のもと、挨拶の励行や規範意識の向上を図るため、生徒に声かけをしている。	登校指導や校内巡視の際に、生徒に声かけしているとする肯定的評価が A　９０%以上 B　８５%以上 C　８０%以上 D　８０%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、教員にアンケートを実施する。 （教員の学校評価）
		⑤	いじめのない学校づくりを目指し、学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないような取組を行う。	生徒指導課	教員は、いじめを未然に防止するため、アンケート調査や生徒面談、登校指導や昼食時の校舎内の巡回を行い生徒理解に努めている。加えて、ネットでの書き込みについても指導を行っているが、さらに組織的・計画的な取組を推進する必要がある。	【努力指標】 教員が、アンケート調査や面談、校内巡視により、生徒の動向を掴み、いじめの未然防止に繋げている。	アンケートや面談での生徒理解や、校内巡視等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止と早期対策に努めているとする肯定的評価が A　９０%以上 B　８０%以上 C　７０%以上 D　７０%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、教員にアンケートを実施する。 （教員の学校評価）
4	地域から信頼される開かれた教育課程の推進	①	専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。	各学科	６割を超える生徒が地域と連携する取組に参加できていると実感している。工業科の地元中学生を招いてのものづくり体験教室や観光ガイドによる地域の魅力発見・地域貢献、演劇科の地元小・中学校を招いての定期公演の上演、農業科の地元幼稚園、保育園などを招いての「サツマイモ収穫体験」や徳田駅での花の定植活動は今年度も実施する。更に地域との連携や関わりを通じた実践的な学習を、学科全体で進める。	【成果指標】 工業・演劇・農業・商業の分野での地域と連携する事業や学習において実践的な取組が積極的に行われている。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取り組みができているとする肯定的評価が A　７０%以上 B　６０%以上 C　５５%以上 D　５５%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、生徒にアンケートを実施する。 （生徒の学校評価）
		②	生徒が意欲的に取り組むことのできる部活動を展開していく。	特別活動課 学級担任	年度当初は多くの生徒が部活動に加入している。しかし、自身のビジョンの不明瞭さや集団づくりの面から意欲が減退し、足が遠のいてしまうケースが多い。そのような流れで部活動未加入になる生徒の数を減らしていく必要がある。	【成果指標】 生徒が意欲的に部活動に取り組んでいる。	部活動の活動日に対して、８割以上参加しているという肯定的評価が A　９０%以上 B　８０%以上 C　７０%以上 D　７０%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、生徒にアンケートを実施する。 （生徒の学校評価）
		③	本校の教育活動の様子をホームページや校門前掲示板を活用し、学校外部へ効果的に情報を発信する。	総務課 各学科	昨年度ホームページをより見やすくなるように改良した。また、多くの教員がそれぞれ記事を作成し頻繁に更新されるようになってきている。各部活動も含め、生徒の活動の様子がより伝わるよう、種類や内容を充実させていく必要がある。	【成果指標】 学校外部への効果的な情報発信を行うことができている。	本校の教育活動の様子を学校外部に効果的に情報発信ができているとする肯定的評価が A　９０%以上 B　８０%以上 C　７０%以上 D　７０%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、教員にアンケートを実施する。 （教員の学校評価）
5	教職員の働き方改革の推進	①	教職員一人ひとりが、有機的に連携協働し、具体的な手立てを明確にすることを通して、業務の効率化に対する意識を高め、働き方改革を推進する。	各課・科・学年の主任	意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいる教職員は前年度から10%アップし93%となった。今年度も見通しを持ち、入念な準備のもと業務に当たることで、各課・科・学年の主任が業務分担を平準化し、適切に行っていくことで働き方改革を更にすすめていく。	【努力指標】 教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいる。	教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいるとする肯定的評価が A　９０%以上 B　８０%以上 C　７０%以上 D　７０%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	７月と１２月に、教員にアンケートを実施する。 （教員の学校評価）